

人種差別のない社会へ

上月中学校 3年 藤本 柚

先日、気になるニュースを耳にしました。東京の、ある飲食店が「外国人お断り」の張り紙を出したというものです。当然抗議の声が上がりましたが、店主は撤回しなかったそうです。そのニュースの中で、国籍や人種を理由に就職試験が受けられなかったり、住宅の賃貸を断られたりする人もいました。私は、「何で同じ人間なのに、外国人だというだけで差別を受けるのだろう。」と疑問に思いました。多分、今までもこのようなニュースを耳にしていたかもしれませんが、今回、強く印象に残ったのは、この夏オリンピック・パラリンピックがあったからかもしれません。

「平和の祭典」と表現されるとおり、オリンピックは人種や国籍を超えた素晴らしいシーンがたくさんありました。選手たちは、負けた相手の国歌にしっかりと耳を傾け、抱き合い、お互いを讃えあっていました。その姿には、国籍など関係なく、一人一人を尊重するという精神が感じられました。

私が住んでいる佐用町は、非常に外国人にウエルカムな町だと思います。買い物に行ったときや町内の行事でもよく見かけるし、さようチャンネルでは日本語学校での様子が紹介されています。私がよく顔を合わせる方の中にも日本語学校を卒業された方がおられ、時々日本語で「学校楽しい?」「部活頑張ってる?」と声を掛けてくださいます。私はその方が一生懸命勉強して覚えた日本語で話しかけてくださることが嬉しいし、それができるその方を尊敬しています。学校にはALTの先生がいらっしゃいますが、話しかけるときはとても勇気がいります。外国でその国の言語を勉強し、生活するということはとても努力が必要だろうなと思います。

国が違えば、言葉や肌の色だけでなく、習慣や文化、宗教も異なります。それは当然のことです。しかし、それが「差別」に繋がってはいけないと思います。多種多様な言葉や文化が存在するからこそ、世界が成り立っているのです。最初に挙げた東京の事例は、もしかしたら、ある外国人のせいで不快な思いをした経験が実際にあったのかもしれませんが、しかし、それはあくまで「個人」の問題です。外国人全てを排除する理由にはなりません。もしかしたら、その不快な思いは慣習の違いによるものだったかもしれません。このような問題を解決していくためには、いろいろな言語や文化と触れ合い、国籍や人種なんて関係なく、正しく向き合っていくことが大切だと思います。そのためには、佐用町のように、誰でも参加できて交流を深めることのできる場を設けていくべきだと思います。人種差別を無くすためには、外見で人を判断しないことや、その国の文化や宗教について正しい理解をすることが大切です。それぞれの違いを尊重しあう「異文化理解」が日本中に、世界中に広がることを願います。私も様々な国の言語や文化に触れて、正しい知識をもてるように勉強していきたいと思います。